

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2008年11月10日(月) 午後3時00分～4時15分

講演者 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 金子郁容氏

テーマ 「図書街プロジェクト」

コンセプト 松岡正剛

全体リーダー 金子郁容

慶応義塾大学 倉林修一、池田紀務

北海道大学 田中譲

京都大学 土佐尚子

編集 工学研究所 N I C T 委託研究 H17,18,19,20

講演内容

1. 図書街とは何か

- ・ 書物のもつさまざまな「つながり」—人類の知的活動の蓄積としての書物が持つ「つながり」に注目する。
 - ・ 本を手にとることによってさまざまなことを思い起こす。
個々の書物が編集された「世界」/ 他の書物を引用～ページの角を折る/ 書き込みをする
テーマやジャンル/ 著者/ 時代
 - ・ 三次元の「街」として、**それらの意味的な「つながり」**を構造化・可視化
バーチャルな街の構造として直観的な意味のつながりやまとまりを表現する
書物/ 本棚/ 本棚の集まり/ 大小の道/ 広場など/ トポス (場所の情報)
交差点/ 広場/ 大きな道/ 路地/ 本棚のデザイン
- ※ 図書街は図書館をデジタル化した、**いわゆるデジタル図書館**ではない

2. DVD のデモを観賞

図書をベースとして「街」が造られている。自分の関心、興味からさまざまな本の旅ができる (特徴)

- ・ 図書街=インターネット上の知的編集空間、ユニバーサルコミュニケーションのためのプラットフォーム
- ・ 文脈を持っている (袋小路は文脈が途切れていることを意味する)。
- ・ トポス (**場所の情報や記憶**) を持っている。
- ・ **デザインされた書棚**がテーマを暗示する「形」の記憶を持っている。

3. 図書街があると何ができるか

書籍の文脈とつながり—情報が構造化された空間

- ・ 三次元直感的な構造を「体感」し、連想し、利用者の文脈に合った情報を獲得する。
- ・ 現実空間の情報 (例: 京都観光) を図書街に対応させることによって新しい情報を獲得する。
- ・ Web など構造のない情報空間を図書街にマップすることで情報を構造化する。
- ・ 情報構造を利用して効率的・効果的な情報獲得を可能にする。

通常のWeb空間は、フラットで構造がないが、図書館は、専門家の知識と書籍の文脈によって情報が構造化されているため情報獲得がより効果的である。

4. 図書館を利用した京都観光携帯ナビゲータデモ

京都観光案内×図書館による関連情報やナビゲーション情報の提供により、通常の観光よりも歴史や文化に対する理解を深めていくことを目的とした実験的システムが実装され、実験的に利用されている。利用者の一部からは、バーチャル空間でのナビゲーションイメージで連想を膨らませ、ナビだけで観光した気分になれるとの感想もあった。

京都観光におけるアクティブナビの例

- 300箇所スポットのそれぞれに20冊ぐらゐの関連した内容の本を用意し、図書館と連携をとりながらその本のキーワードをひろうなどする
- その人の興味や関心のある本と訪れた場所の由来に関わる本との関係を計算して次に訪問したら面白そうな場所を提案する。
- 観光スポットの本棚から新しい発想を得る。

Web情報を図書館にマップすることでWeb情報だけでは分からない「隠れた」関連を発見する。

構造のないWeb上の情報の関連リンクを辿ることで新しい関係性や追加情報を発見する。

→図書館の書段・本棚などの近傍系があるので容易に関連が発見できる。

(例)

ウィキペディアと図書館の比較

- 図書館では、紀貫之（古今和歌集、土佐日記、かな文字）と本居宣長（国学、いにしえごころ）非常に近い関係だが、ウィキペディアでは、「日本の書家一覧」のリンク集でしか、つながっていない。
- 紫式部と永井荷風の関係は、ともに日記作家であるがウィキペディアでは、関係なしとなる

以上